

社会科 4年A組	自然災害から人々を守る ～浜口梧陵に学ぶわたしたちのまち和歌山の防災～	中山 和幸
-------------------------------	--	--------------

1. 単元について

本単元は、学習指導要領第4学年の内容（3）及び（4）－（イ）に基づいて設定しており、「自然災害から人々を守る活動」と「県内の先人の働き」の2つの単元を合わせた複合単元である。本単元において子どもたちは、まず、地域の発展に尽くした浜口梧陵の働きについて考えることを通して梧陵の地域貢献について理解するとともに、安政の大地震が起こった当時の防災について学んでいく。次に和歌山の防災について調査をする中で、自助・共助・公助の視点で昔の防災と比較しながら、現在の地域の防災システムや減災システムについて理解を深めていく。そして最後に和歌山県民の防災意識を高めるために自分たちにできることを考えていく。

本単元で、特に重視したいことは「自ら進んで地域の問題解決に向けて自分たちにできることを構想する見方・考え方を育むこと」である。そのためには、子どもたち自身が切実な問いを見出し、追究を自分ごとにする必要があると考える。そこで、本単元では子どもたちが既に知っていること（既知）と未だ知らないこと（未知）との「ずれ」を大切にしたい。また、単元終末には、地域の問題解決に向けて、自分たちにできることを構想する活動を行い、子どもたちの社会の一員としての自覚を高め、よりよい社会を構想する見方・考え方を育みたい。

2. 単元設定の理由

（1）本実践の主張点

浜口梧陵や和歌山の防災について既知と未知の「ずれ」を生み出す教材を工夫することで、子どもたちが切実な「問い」を見出すことができる。また、和歌山の防災システムの意味や特徴を考察する中で見つけた問題を解決するために、自分たちにできることを構想することで、社会の一員としてよりよい社会を構想する見方・考え方を育むことができる。

（2）教科提案とのかかわり

本単元では、社会科部として「よりよい社会の形成に参画する子ども」を育てるために意識している単元構想の6つの要件のうち、①地域課題の教材化、②地域への働きかけの2つに重点をおいた授業づくりに取り組んでいる。

①地域課題の教材化 既知と未知とのずれを生かして切実な問いを子どもたちが見出す

本単元では、浜口梧陵の働きと和歌山の防災の2つの社会的事象を教材として取り上げる。子どもたちの中には、浜口梧陵がどのようなことをした人物か知っている子どももいるだろう。また、防災についても和歌山県では近い将来大きな地震が起こると予想されていることや非常持ち出し袋を準備するなどの備えをしておくことの重要性もどこかで耳にし、知っているだろう。

本単元では、このように既に知っていること（既知）と未だ知らないこと（未知）のずれを生み出す教材を選択し、子どもの学びの筋に沿ってそれらの教材と出合わせることで、切実な問いを子どもの内から生み出せるようにしたい。

②地域への働きかけ 実社会に働きかける経験が社会の一員としての自覚を育てる

変化に富む現代社会に生きる一人の人間として、子どもたち一人一人に社会の一員としての自覚を育てる必要がある。そのためには、教室内部に閉じられた社会科学習では、不十分であり、自分たちが学習を通じて、思考し、理解したことを地域に発信・提案していくような「地域への働きかけ」を行ってこそ、社会の一員としての自覚をより強くもてるのではないかと考える。

本單元では、単元の終末において、子どもたちがよりよい和歌山の防災について構想したことを地域の人に発信していく。このような活動が子どもたちの経験知となり、社会の一員としての自覚を深めていくことができるのではないかと期待している。

(3) 問い続け、学び続ける子どもたちをめざすために

社会科における「問い続け、学び続ける子どもたち」の姿とは、子どもたちが社会的事象、社会生活に関わる中で、現状を知り、問題を発見し、問題の解決に向けて、ねばり強く仲間とともに学び続ける姿である。浜口梧陵や和歌山の防災について調査したり、和歌山の防災に関わっている人の思いや願い、工夫などを聞いたりする中で、子どもたちに生まれる疑問や問題の解決に向けて問い続け、学び続ける姿を引き出したい。

3. 単元目標

- ・ 浜口梧陵や和歌山の防災について関心をもち、すすんで浜口梧陵の働きの意味や和歌山のよりよい防災について考えたり、考えを表現しようとしたりすることができる。(社会と関わる力)
- ・ 仲間との意見交流を通して、浜口梧陵の働きの意味や和歌山のよりよい防災について自分なりの考えをもち、判断することができる。(公正な判断力)
- ・ 浜口梧陵や和歌山の防災について調査したり、資料を活用したりして調べたりすることを通して、浜口梧陵の働きが当時の生活の向上に重要な役割を果たしたことや、和歌山の防災に関わる人々は県民の安全を守るために様々な工夫や努力、備えをしていることがわかる。(社会認識)

4. 単元計画 (全24時間 本時18/24)

<p>第一次</p> <p>○南海トラフ大地震について知ろう。(①)</p> <p>○これまで和歌山で起きた地震について知ろう (①)</p> <p>第二次</p> <p>○安政の大地震と浜口梧陵について調べよう。(⑥)</p>	<p>○浜口梧陵は、どのような人だったのか考えよう。(②)</p> <p>第三次</p> <p>○和歌山の防災について調べよう。(⑥)</p> <p>○和歌山の防災の不安点、問題について考えよう。(③)</p> <p>第四次</p> <p>○学んだことをまとめて地域の人に発信しよう。(⑤)</p>
--	---

5. 本時について

「公正な判断力の育成」を目指す場面を取り上げたい。本時までの学習で和歌山の防災に携わっている人々の工夫や努力を知った子どもたちがさらに学びを進めていく上で、和歌山の防災に携わっている人々が直面している問題（県民の防災意識の低さ等）があることを知り、その問題について仲間とともに考える場面を本時としたい。大人が現実の社会の中で悩んでいる問題を子どもたちが解決することは容易ではなく、そもそも明確な正解があるものではないだろう。しかし、そのような「答えのない問題」に対して、子どもたちが主体的に調べ、仲間と協働して問題解決を図る姿を引き出したい。